

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 地域人ネットワーク

22A-39

代表者：代表理事 白瀧康次

URL : <https://chiikijin.com/index.html>

1. 活動が必要とされた状況

2008年から埼玉県が実施している見沼田んぼ公有地利活推進事業を活用し、県民を対象に「見沼田んぼ菜の花体験教室」を開催している。菜の花を觀賞するだけでなくナタネを収穫して搾油し食用にするまでの活動の他に、見沼田んぼの代表的な野菜を栽培し野菜を食し、農業の大切さを知ってもらい見沼田んぼの環境保全に資する活動をしている。

約 3700 m²の広い畑のために、農家で使わなくなった古いトラクター型の耕耘機を借用して耕耘をしていたが、老朽化に伴いオーバーヒートが頻発し修理不能な状態になった。このため、サイサン環境保全基金にトラクター型耕耘機の助成を申請した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2019年9月20日にトラクター型耕耘機（YANMAR GK13）が納品され、トラクターを収納するために畑にビニールハウス型収納庫を製作した（写真-1）。9月26日に約900 m²のナタネ畑を耕耘した後、肥料を撒いて再度耕耘し菜種の播種準備を完了した（写真-2）。10月12日に台風19号による見沼田んぼの洪水予報が出たため、畑から約1km離れた高台にあるビニールハウス型倉庫にトラクターを移動した。畑の型収納庫は60cmほど冠水した。このためトラクターは高台の倉庫に収納することとした。



写真-1 収納庫



写真-2 菜種畑耕耘



写真-3 2月の菜種畑

3. 活動の成果

トラクターによって深く耕耘できたため、2月現在の菜種畑は雑草が少く順調に成長している（写真-3）。また、「見沼田んぼ菜の花体験教室」で栽培していたサツマイモ、里芋、かぼちゃなどの収穫が終わった畑をトラクターで耕耘し、土地改良の目的で根が深くまで伸びるライ麦を播種した。春に刈り取ったライ麦をトラクターで畑にすき込む予定である。

4. 今後に残された課題

令和2年度は、菜種の栽培面積を令和1年度の約2倍の2000 m²とする予定である。トラクター助成を受けられたおかげで耕耘／播種作業は問題なく実行できる見通しであるが、足踏み脱穀機で行う脱穀作業は体力の消耗が激しく、会員の高齢化に伴って作業者の確保が困難になると予想される。令和3年6月の収穫時まで電動式脱穀機の入手が望まれる。